

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本裕美 藤本洋美 吉本佑司
学力向上推進員	教務課長	豊田 尚子
委員	各学部長 主幹教諭 指導教諭・研究課長 人権進路課長 教務主任	福原薫 宮本洋子 谷口夏紀 森浩一 山田千代 二宮智子 片寄恭代 高木奈緒子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

( 中 学 部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よさ	これまでの学びや経験等により習得した動作、人と関わる力等を活かして、意欲的に活動できる。保護者や関係機関等の支援を受けて、健康に留意し活動に取り組んでいる。	課題 活動や経験が制限されたり、支援を受ける経験が多く、受け身になりがちだったりする。人や物への興味・関心を広げ、関わる中で、主体的に生活する力をつけたい。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
様々な感覚を活用したり、地域の方等と関わったりする体験活動を通して、主体的・意欲的に人や物と関わろうとする。	個々の生徒に設定した目標で「十分達した」「達した」という評価が80%以上となる。	個々の生徒に設定した目標について「達した」という評価が87%だった。 ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①個々の生徒の実態に応じて、様々な感覚等を活用する活動、興味・関心の広がり期待できる実体験、また他学部の児童生徒や教員、地域の方と関わることでできる活動を計画する。 ②「総合的な学習の時間」の目標等の共通理解を図る。	①様々な感覚を活用できる体験活動を行う。 ②地域の人材を講師として招聘した出前授業を2回以上行う。 ③「総合的な学習の時間」の個々の生徒の目標を作成し、評価する。	①聴覚、触覚、嗅覚、味覚、視覚等の感覚を活用した体験活動を実施した。 ②外部講師による出前授業2回、また大学ダンス部学生等の地域の方と関わる活動を行った。 ③本校の「総合的な学習の時間」の目標や育成を目指す資質・能力、中学部の目標の共通理解を図り、個々の生徒の目標を作成し、評価した。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
生徒の実態に応じた「総合的な学習の時間」の取組において、本校の「総合的な学習の時間」の目標や育成を目指す資質・能力を確認しながら、特別活動とのねらいの違いを理解し、自立活動との関連を踏まえた上で人との関わりを広げ、自ら選び、伝える経験を増やすことによりどのような活動計画の中で取り組んでいくかを検討していく必要がある。		

